台湾産蝶の未記録種および金門島産の蝶に関する覚書

下野谷　豊一
福井県福井市宝永3丁目 31—12
余　清金
中華民国台湾省南投県埔里鎮東栄路 3号

Remarks on some unrecorded butterflies from Formosa (Taiwan), with notes on the butterflies from Is. Ching-Meng.

TOYOKAZU SHIMONOYA and C. K. YU

1969年には台湾をはじめ沖縄，日本などの各地で数多くの迷蝶と考えられるものが採集されている．台湾，沖縄では奇しくも同一産地のものに由来すると考えられる全く同じ種，亜種が，同じ時期に得られていることより，これらの迷蝶の飛来には何か気流などに起因すると考えられる一定のコースがあるようである．1969年は，例年に比べ台風の発生が少いにもかかわらず，その反対に迷蝶の飛来が多かったのは，迷蝶が台風以外の要因により渡ることを示しているように思える．台湾で採集される迷蝶の採集地点は，そのほとんどが南部のそれも東海岸沿いに片よっており，北～中部および西海岸側で発見されることは少ない．

今回記録するものは，1969年に台湾で得られたもののうち，すでに発表ずみ（蝶と蛾，Vol. XXI, No. 3 & 4）のマダラチョウ科の一部を除いたもので，この中でも，*Appias maria maria* SEMPER イシガキシロチョウ，*Libythea geoffroy phillipina* STAUDINGER ムラサキテングチョウなどはとくに興味あるものと考える．

つぎに金門島産の蝶であるが，同島の特殊事情のため，昆虫などの採集・調査は恐らく不可能と考えていたが，はからずも今回，同島へ派遣された中華民国の従軍兵士により採集された若干の大型種を検することができた．金門島のものは，何れも台湾本島のとは別亜種に属するもので，*Euploea midamus midamus* LINNÉ モクセイムラサキマダラは，金門島より初めて記録するものである．

本文作成にあたり比較材料などで御援助賜った本野　晃氏，ならびに種々御教示賜った白水　隆氏，村山修一氏に厚く御礼申し上げる．

Troides magellanus magellanus C. & R. FELDER　コウトウキシタアゲハ（台湾本島未記録）

1♂，1♀，恒春一墾丁の中間地点，31. viii. 1969，方水生（PUNG THUI-SHENG）氏採集，前翅長♂ 74mm，♀ 88mm. (Fig. 1，♂，表面；2，♀ 表面)

台湾では，従来より紅頭嶼（蘭嶼）に産することが知られており，フィリピンにも分布するが，今回，台湾本島の南部で同じ日に♂♀が採集された．採集者の方水生氏のお話しによると，以前に恒春地区で本種の蛹と思われるものも採集したことがある由で，定着している可能性も考えられる．採集地点と紅頭嶼とは，距離的にも近く（ガランピ岬より紅頭嶼の島影が望見できる），紅頭嶼より飛来したものとも考えられるが，本種の得られたのと同じ地区に1969年の7～8月には，フィリピン地区よりの迷蝶が数多く渡ってきており，今回の♂♀はフィリピン地区のものに由来すると考えたい．なお近年，紅頭嶼においても本種が少くなっており，その保護が望まれる．

Appias maria maria SEMPER　イシガキシロチョウ（台湾未記録）

1♀，台東県大武，vii. 1969，前翅長 36.5mm. (Fig. 3，表面；4，裏面)

本種は一見，*Appias paulina* ナミエシロチョウの♀を思わせるが，さらに一まわり大型の特異なフィリピン特産のシロチョウで，今回，まったく意外とも思える台湾南部の大武より1♀が採集された．

少々飛び古した個体で，表面は前後翅とも外縁部は，その翅巾の1/3位の巾広い黒色帯にふちどられ，前翅のその黒色帯巾の第3，第5～第7室の各室に白色小紋を有する．前後翅の中央部は白色であるが，後翅においては幾

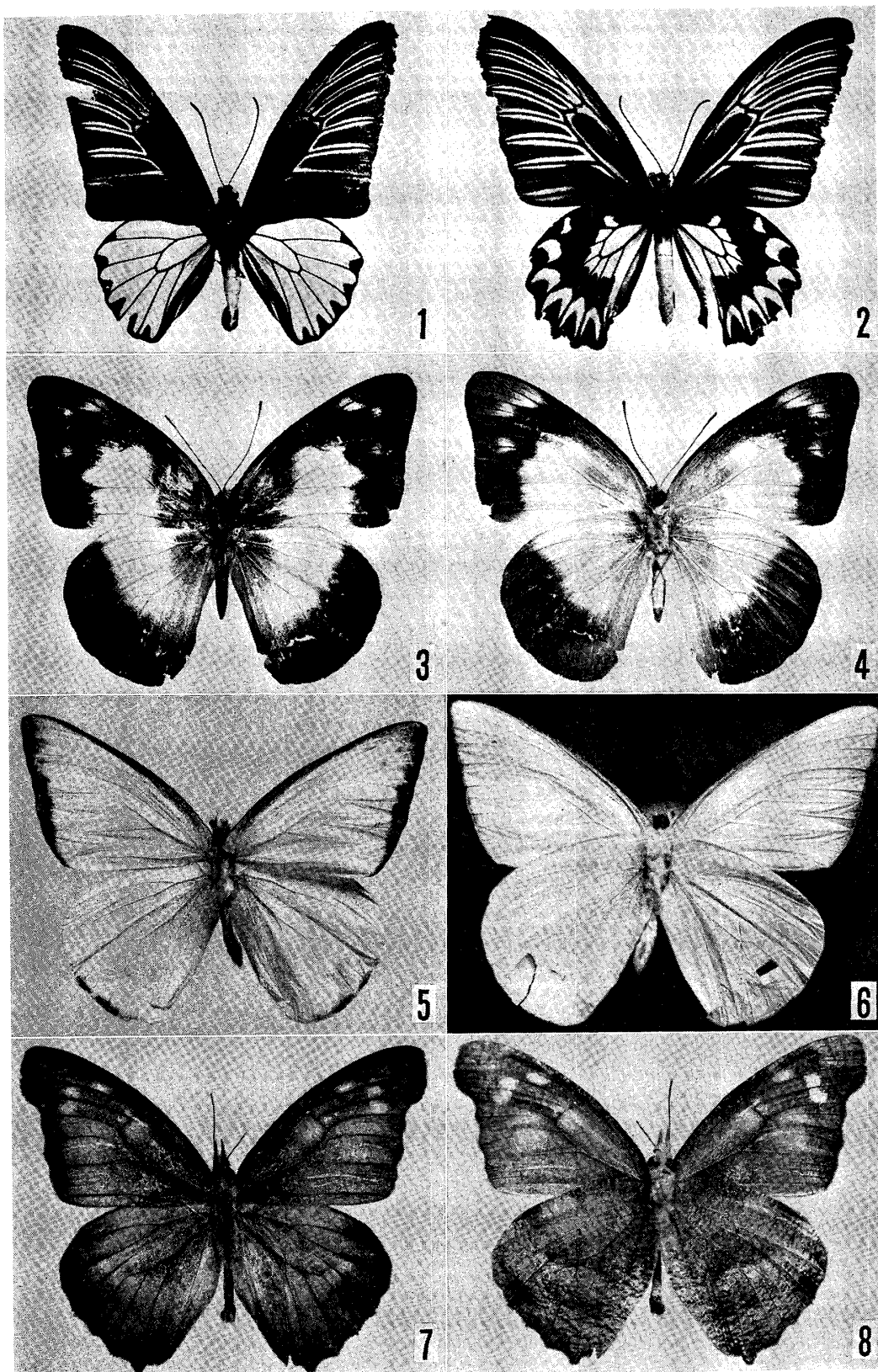



Fig. 1. *Troides magellanus magellanus* C. & R. FELDER, ♂. Fig. 2. Ditto, ♀. Figs. 3 & 4. *Appias maria maria* SEMPER, ♀. Figs. 5 & 6. *Saletara panda nathalia* FELDER, ♂. Figs. 7 & 8. *Libythea geoffroy philippina* STAUDINGER, ♂.

分淡い黄色味を帯びている．また前後翅基部も翅巾の1/3位の巾の黒色部を有する．裏面は表面とほぼ同様の色彩斑紋であるが，前翅基部から前縁部にかけて第7，第8室に黄色鱗が散在する．また後翅においても，その基部と前縁部ならびに外縁部に黄色鱗を有する．

この特徴はルソン島に産する表記原名亜種によく一致し，この地区よりの迷蝶と思われる．台湾で得られたのと同じ頃，沖縄の石垣島からも村山修一氏（蝶と蛾，Vol. XXI, No. 3 & 4）により採集され，*Appias celestina kabiraensis* MURAYAMA イシガキシロチョウの名のもとに新亜種として記載されているが，これも本種の♀であり，台湾のものと同じく，フィリピン地区より渡ってきたものと考えたい．なお，村山修一氏の採集された♀は後翅が美しい濃黄色のもので，このことより本種の♀にも白色型と黄色型の2型があるようだ．

Saletara panda nathalia FELDER イワサキシロチョウ（台湾未記録）

1♂，台東県大武，vii. 1969，前翅長 30mm.（Fig. 5，表面；6，裏面）

種 *panda* はマレー諸島，フィリピンなどに広く分布するもので，台湾より北の沖縄よりも採集記録があり，新亜種 ssp. *iwasakii* SONAN (Zephyrus, Vol. IV, No. 4) として記載されており，最近，同じく石垣島（村山修一，蝶と蛾，Vol. XXI, No. 3 & 4 1970）よりも1♀が記録されている．

今回，台湾より初めての1♂が採集されたが，この♂は一見，台湾に産する *Saletara albina semperi* カワカミシロチョウの♂に酷似するが，少々小型で前翅頂もさらに鋭く尖っており，表面は前翅外縁部がカワカミシロチョウよりさらに巾広く黒色帯で縁取られており，また地色は淡い卵黄色である．後翅第1a～第3室の外縁部に細い黒色部を有する．なお，カワカミシロチョウの♂にも，前翅表面外縁部の黒色帯がよく発達したものが見られるが，この場合，前翅頂より第2室位までに徐々に細まり，第1a，1b室までは達しない．裏面は全面が黄色であるが，前翅端と後翅がとくに黄色味が強い．これらの点は，フィリピンに産する表記亜種の特徴と同じであり，疑いもなく同地区よりの迷蝶と考える．

Euploea sylvestor laetifica BUTLER ムラサキマダラ（ルソン型）

1♀，恒春，viii. 1969，前翅長 45mm.

本種については先に本誌（蝶と蛾，Vol. XXI, No. 3 & 4）に台湾未記録の亜種として記録したが，その後さらに1♀が得られたので記録する．今回のものは新鮮な個体である．

なお，ついでながら *Euploea swainson swainson* GODART クロイワマダラも，その後1♂1♀が恒春地区で，また *Euploea tulliolus monilis* MOORE マサキルリマダラも同じく，恒春，台東地区で数十頭が得られているので参考までに付記する．

Libythea geoffroy philippina STAUDINGER ムラサキテングチョウ（台湾未記録）

1♂，台東県大武山，20. vii. 1969，陳志（CHERN-JYH）氏採集．前翅長 29.5mm.（Fig. 7，表面；8，裏面）

表面が美しい紫色のテングチョウで，ジャバ，ロンボク，チモール，ビルマ，ラオス，タイ，セレベス，フィリピン，モルッカ諸島，ニューギニア，オーストラリア，ニューカレドニア，ソロモン諸島と極めて分布の広い種で，また，多くの地方型に分けられている．

今回得られた1♂の表面は，前後翅とも外縁部が黒褐色で縁取られ，後翅においてはその巾が広く，その他の部分は紫色でとくに基部付近は光線の具合により幾分コバルト色に輝く．前翅表面第4，第5室の中央部と第6室の基部に淡い灰色小紋を，また，後翅表面第4，第5室中央部に淡い一見かすれたような茶灰色の小紋を有する．裏面は全体が枯葉状の灰白色であるが，表面と同じように，前翅第4～6室に白色小紋を表わす．

上記の外見上の特徴は，フィリピンに産する亜種 ssp. *philippina* STAUDINGER と同じ傾向のもので，本種もフィリピン地区のものに由来する迷蝶と考える．

Chilasa clytia clytia LINNÉ キベリアゲハ

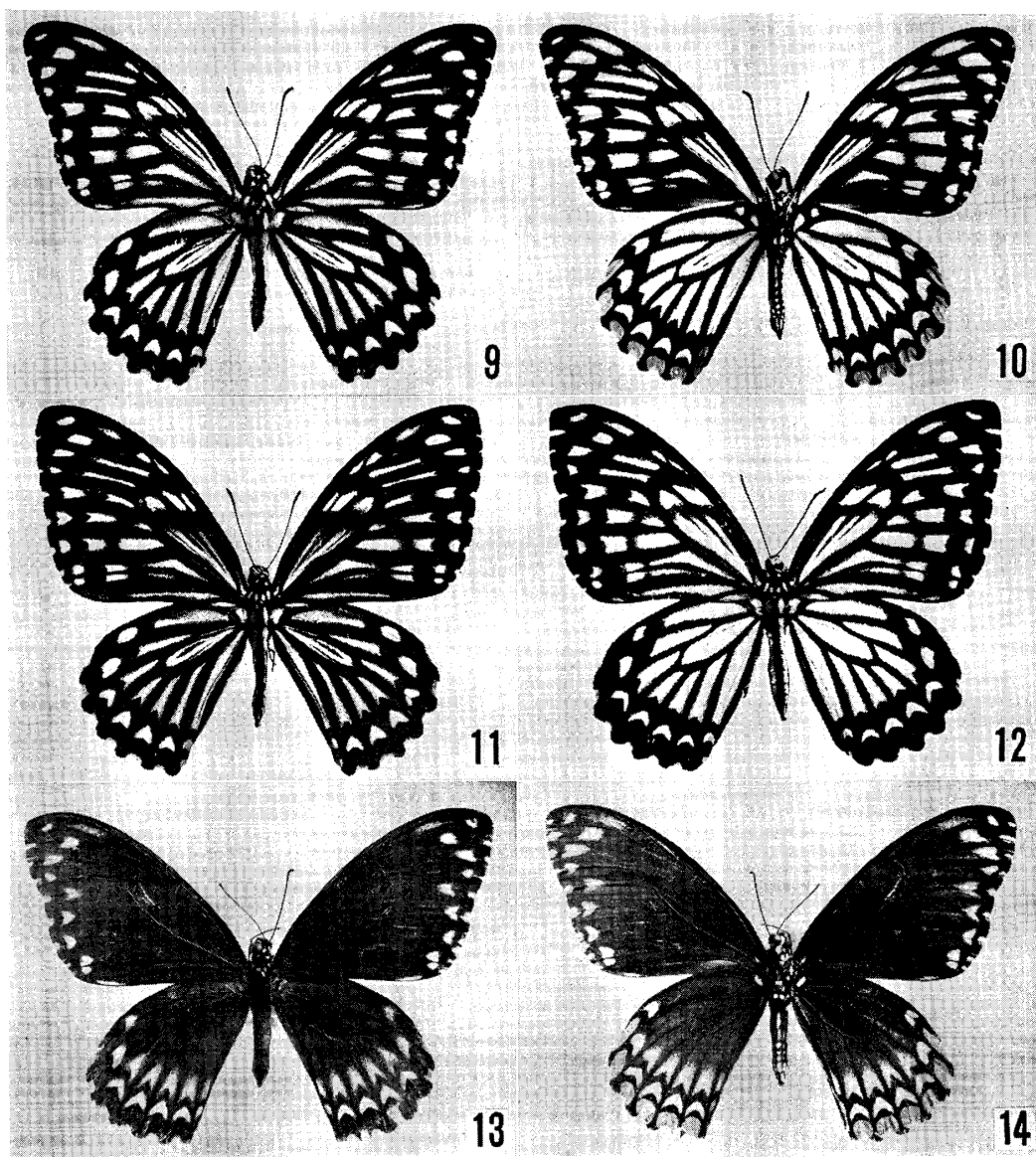
i) f. *clytia* LINNÉ（黒色型）(Fig. 13，表面；14，裏面)

ii) f. *dissimilis* LINNÉ (Fig. 9，♂表面；10，裏面；11，♀表面；12，♀表面)

23♂♂ 6♀♀，金門島，1969，前翅長♂ 49～52mm，♀ 50～55mm.

台湾産の本種については，古く1905年に松村松年氏により台湾南部に産するとして記録されているが，その真偽については従来より疑問視されてきた．その後，岡野磨瑳郎氏（東北昆虫研究，Vol. 1, No. 1, 1964）により台湾の西海岸側の花蓮県鳳林鎮で得られたという1♂が記録された．

しかるに，我々は1969年，従軍兵士により採集された金門島産の本種を多数入手し検することができた．採集地の特殊な事情により採集の際の詳しい状況やデータは判らないが，それらの大半は表記原名亜種の代表的な一型である f. *dissimilis* LINNÉ で調べた内の♂はすべてこの型のものであった．一方，♀は変化に富み f. ***dissimilis***, f. *clytia* の2型のものが認められ，f. *dissimilis* の中にも Figs. 11, 12 のように黒味の強いものと白っぽいものとの2型があり後者のような型のものは唯一頭のみであった．また，もう一つの型 f. *clytia*（黒色型）（Figs. 13 & 14）も2♀♀含まれていたが，いずれも飛び古しており，同時に採集された f. *dissimilis* 型のものがすべて新鮮なのはどのような理由であろうか．

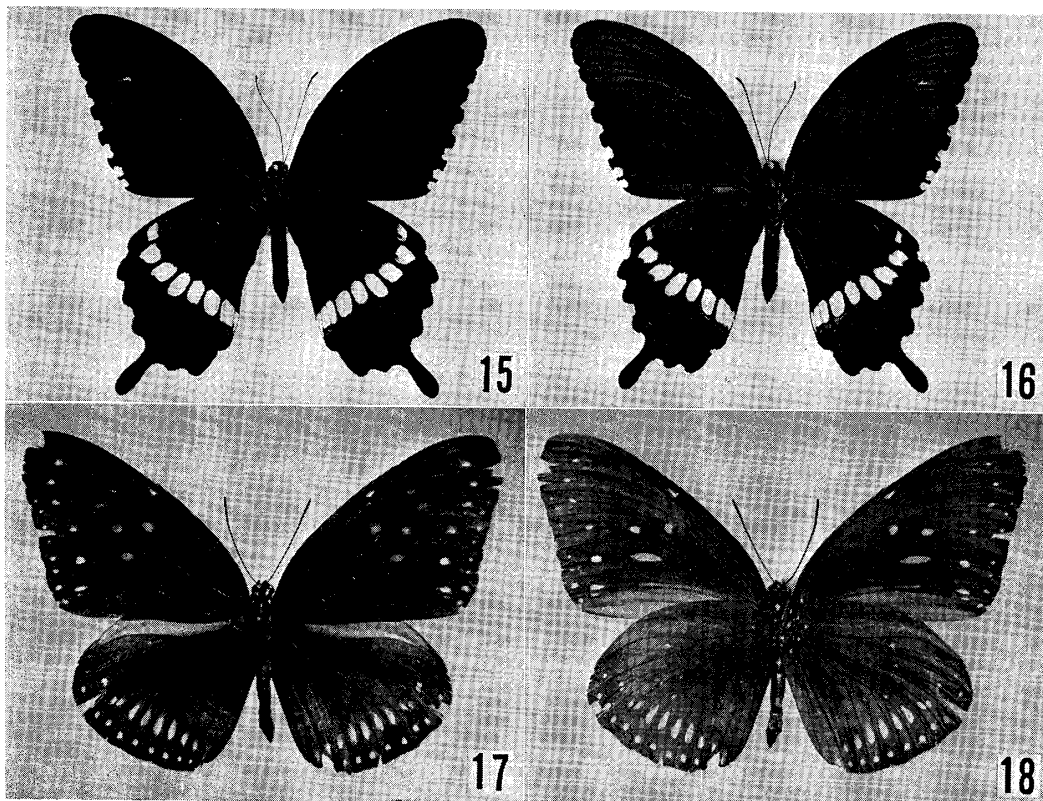
金門島において，本種は普通に産するようで，同時に採集された蝶の大半を占めている．ついでながら，岡野磨瑳郎氏により記録された1♂は，付された見事な原色図より察すると，完全無欠の新鮮な標本であり，また，本種

Figs. 9–10. *Chilasa clytia clytia* LINNÉ, ♂. Figs. 11–14. Ditto, ♀.

が迷蝶として渡るような性質のものでもないので，この例は何か人為的な要因で入り込んだ可能性があるように考える．なお，今回得られた内の f. *clytia* の♀は，同時に採集された *Euploea midamus midamus* LINNÉ モクセイムラサキマダラに擬態しているものと思う．

Papilio polytes polytes LINNÉ　シロオビアゲハ

2♂♂，金門島，1969，前翅長 48mm．(Fig. 15，表面；16，裏面)

台湾本島に産する亜種 ssp. *pasikrates* FRUH. に似るが，後翅中央の前縁部から内縁部に向っての白紋列はさらに太く，後翅裏面亜外縁部の翅脈間の黄橙色弦月状紋の発達は悪く，半ば消失しており，また，肛角部の橙色弦月紋も消失している．

これらの特徴は，手許の香港および華中（大陸）産の原名亜種と考えられるものと区別し難いが，ただ後翅中央部の白色紋列が2♂♂とも少々細く，この点異っているが，今回採集されたのは僅かに2頭で，また個体変異の極めて多い種なので，一応，地理的にも妥当と考えられる表記亜種と考えたい．

Figs. 15 & 16. *Papilio polytes polytes* LINNÉ, ♂.　Figs. 17 & 18. *Euploea midamus midamus* LINNÉ, ♀.

Euploea midamus midamus LINNÉ　モクセイムラサキマダラ（金門島未記録）(新称)

1♀，金門島，1969，前翅長 55mm．(Fig. 17，表面；18，裏面)

種 *midamus* は，アッサム，南支那，マレーシア，フィリピンなどに分布し，青く光る型のものと，小型で黒色のものとの2つのグループのものがあり，おのおの多くの亜種に分れている．今回得られた1♀は青く光る型のもので，手許の香港産の原名亜種にほとんど一致するが，後翅亜外縁の翅脈間の白色紋列の発達が幾分悪く，あるいは別のものとして区別できるものかも知れないが，この点は単なる個体変異かもわからず，また，比較材料も少く，変異の多い *Euploea* のことなので，詳しい比較検討はさらに多くの材料を得てからにしたい．